

「秋のイタリアランチフェア」開催中！

順正学園国際交流会館1階のレストラン「ラ・エスペランサ」では、「秋のイタリアランチフェア」(9月25日まで)を開催しています。イタリア人シェフのアレージ・ジョルジョさんの手による、安心安全な高梁産の野菜や食材にこだわった本場のイタリアランチとデザート。皆様のご来店をお待ちしておりますので、ぜひお越しいただきお楽しみください。

なお、期間中は「広報たかはしを見た」と言っていたらランチご利用のお客様には、食後のコーヒーを無料サービスしています。



イタリアランチ 600円
 パスタランチ 500円
 コーヒー&日替わりデザート 300円
 ※数量限定のため、売り切れの場合もあります。



レストラン「ラ・エスペランサ」
 場所：順正学園国際交流会館1階(奥万田町)
 駐車場：10台程度
 営業時間：平日 午前11時30分～午後2時(※土・日曜日、祝日は休業)
 問い合わせ：株式会社J E I ☎②3720

■問い合わせ 順正学園 入試広報室(フリーダイヤル☎0120-25-9944)

地名もめく

九十 津川町 実相寺

「実相寺」は津川町今津から有漢川に沿って国道三三三号線を北へ進んだ津川町八川地区にあります。八川の高下迫から左へ有漢川を渡ると「実相寺」への入口・巨瀬町柳川西の集落から山間の窪を上がったところが「実相寺」です。「実相寺」は山に挟まれた窪地で耕地は階段状になった、ほとんどが水田で、集落は川面町辻前に通じる市道に沿った斜面に点在しています。

中世から寛永の頃(一六二四～四四)にかけての「実相寺」は古瀬、八川村、古瀬両名村などともに古瀬村(古代の巨瀬郷)に含まれていました。「正保郷帳」(一六四五～四六年頃)に古瀬八川村三五八石余、「古



山間に点在する実相寺の集落

瀬実相寺村」一四石余と記録されています。また、天保五年(一八三四)頃の「天保郷帳」では、古瀬八川村として六四〇石余とあって、「古瀬実相寺村」の村名は、あがっていません。恐らく「八川村」に含まれているのでしよう。「備中誌」によると、八川村、家数一〇一、人数四〇八と記録し、小名として「実相寺」「堂屋敷」「石仏」「法花峠」をあげています。

「実相寺」は、現在、津川町八川(大字)地域に編入され、戸数も減少し二十軒足らずになっていますが、古くから仏教の聖地だった場所で、人々の「信仰の里」として栄えた地域だったので。実相寺という寺があったのかどうかはつきりしませんが、三十一代用明天皇の皇子聖徳太子の開基と伝えられ、古代仏教の法相宗(南都六宗の一つ)の木堂を中心として、七か坊があったといわれ、総称して「大石山実相寺」といわれていました。が、康元年間(一二五六～五七)に放火で古記録など消失してしまっ、詳細は不明です。

七か坊のうち三か坊は無住となつて廃寺となりましたが、新坊(現天台寺)・円満坊は天台宗となり、井元坊・大坊は真言宗として四か寺が残っていました(「上房郡誌」)。現在は、天台寺、円満寺、大元寺の三か寺が残っているのみですが、いずれも山号が大石山といい、古代からこの地には石

(岩)の信仰がある地域で、「大石山」の山号がついているのです。

「実相寺」には、三か寺共有の「本堂」が残っていて、これが法相宗「大石山実相寺」一山の本堂だったので。この本堂には、本尊の阿彌如来、そして向かって右側に不動明王、左側に毘沙門天の立派な三尊仏(いづれも寄木造)室町時代末期の作で市重要文化財)が祭られています。この本堂は松山城主の信仰も厚かったようで、寛文一〇年(一六七〇)に水谷勝宗、安政七年(一八六〇)に板倉勝静も再建建立しています。安藤信友も屋根葺き替えなどを行っています。このように松山藩と深い関係があったのです。本堂の裏には三か寺の鎮主として十二社権現がありました。大正三年に稲荷神社とともに八川の和井元に移されています。

実相寺の上と下の人々は、この本堂に年二回集まり、大数珠で「お・か・ん・き」をして、鐘・太鼓を持って各戸を訪れて、「なんまいだ、なんまいだ」と念仏を唱え、接待して祭っていました。また、虫送りの行事を行い豊作を祈ったのです。「実相寺」というのは、この本堂を中心として、たくさん坊があつたと思われ、国道三三三号線から「実相寺」へ入っていく通りに「大門」といわれる地名が残っていて、ここには仁王像二体が祭られていた

と伝えられていること
 から「実相寺」という聖地への入口として大きな門があったことが考えられるのです。近辺には古びた薬師如来座像が残っていて、これらは「実相寺」と深い関係があるのではないかと、古い聖地だった時代が偲ばれるのです。

今でも巨瀬町尾原の御前神社の棟札に遷宮導師として、大石山実相寺の寺の文字が見られ、今津八幡宮などの近隣の神社は全て「実相寺」諸坊と深い関係があったことが分かるのです。また、この地には「実相寺の人々は頭付きの魚は食べない」とか、「本堂の前に大石が現れて、星が石といった五社八幡宮の伝説」とか「蛇骨池の伝説」など、いづれも信仰にまつわる話が多く残っています。

「実相寺」という地名は、古代仏教(法相宗)といわれる「大石山実相寺」の里だったことから、地名となつたのでしよう。また、中世からは村名として「実相寺」となっていますが、もともとは、七か坊あつた寺院の一山の里としての地名で、宗教地名の一つなのです。(文・松前俊洋さん)



実相寺三か寺共有の「本堂」

成羽病院通信

■問い合わせ ☎④3111

認知症とリハビリ

成羽病院 作業療法士 高野仁見

認知症とは、一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすような状態といわれています。厚生労働省の調査では、85歳以上の4人に1人が認知症を発症しているといわれています。まず、認知症は誰にでもありうる病気だということをしっかり認識しておきましょう。

認知症治療の一つに、脳の活性化を図る脳リハビリがあります。脳の活性化には、複雑な作業からでなく単純な作業から始めていく事が一番効率的であり、具体的には、指の運動や音読と計算、人とのコミュニケーションがあげられます。

さらに、身体のリハビリを一緒に行う事も効果的です。方法としては、身体を使っていない筋肉を動かして体力をつけ、軽い負荷の有酸素運動を行います。その運動時に神経末端から分泌される物質が、心理的改善にとっても良いといわれています。

最後に、介護者が一人で負担を抱えないよう、利用できるサービス等をうまく活用しながら、休息やリフレッシュできる時間を確保していくこともとても大切です。介護の苦勞をみんなで支え合える環境づくりをしていきましょう。

